



さあ、答え合わせをしよう！

Vol.70 調べてみよう～道具①

※ココを見てね! ▶ 調べてみよう～生活文化「道具(どうぐ)」

1. 大昔の道具(どうぐ)の中でも、「土器(どき)」はいろんな使われ方をしました。土器(どき)は、粘土(ねんど)を焼(や)いてつくった器(うつわ)です。次のうち、土器の話ではないのは どれですか？

正解:②首かざりや耳かざりなど、アクセサリーとしてぶらさげた

大昔から使っていた道具(どうぐ)のなかでも、とりわけ便利(べんり)なのが土器(どき)です。土器(どき)は、食べ物を煮炊(にた)きする鍋(なべ)や、食器(しょっき)として使われました。また、死んだ人を埋葬(まいそう)するときには棺(ひつぎ)に入れたりしたし、儀式(ぎしき)や祭りの道具(どうぐ)としても使われました。土器(どき)は、粘土(ねんど)や土を焼(や)いた焼き物(やきもの)なので、重(おも)みがあります。だから、いくらオシャレ好きな古代人(こだいじん)でも、さすがに首や耳からぶらさげていた人はいないでしょう。間違(まちが)っているのは「首かざりや耳かざりなど、アクセサリーとしてぶらさげた」という説明(せつめい)。正解は、②でした。

2. 縄文時代に、新潟県をはじめ、中部地方や関東地方を中心に流行(りゅうこう)した、粘土(ねんど)のひもを貼(は)りつけて立体的で豪華(ごうか)な飾(かざ)りをつけた土器は、なんと呼ばれていますか？

正解:②火焰型土器(かえんがたどき)

正解は、②火焰型土器(かえんがたどき)。新潟県(にいがたけん)の「お宝ベスト5」に写真(しゃしん)付きで紹介されているのは、笹山遺跡(ささやまいせき) 出土(しゅつど)の国宝(こくほう)です。その堂々(どうどう)たる姿(すがた)は必見(ひっけん)! 美(うつく)しく、気高(けだ)い土器(どき)として、世界的(せかいてき)にも注目(ちゅうもく)されています。ちなみに、「顔面付土器(がんめんつきどき)」は、その名のとおり顔がついている土器(どき)で、茨城県(いばらきけん)の「お宝ベスト5」で泉坂下遺跡(いずみさかしたいせき)の出土品(しゅつどひん)が有名(ゆうめい)です。また、「浅鉢形土器(あさばちがたどき)」は東北北部～北海道南西部で出土(しゅつど)する 浅(あさ)く、平べったい形の土器(どき)です。

3. 古墳時代(こふんじだい)には、弥生土器(やよいどき)の伝統(でんとう)を受けついで土器(どき)が作られるようになります。次のうち、その土器(どき)の名前はどれかな？

正解:③土師器(はじき)

いつの時代にも流行(りゅうこう)があります。弥生時代(やよいじだい)になると、渡来人(とらいじん)の影響(えいきょう)を受け、土器(どき)の形や色合い、デザイン…なども、さまざまなタイプが作られるようになります。そして、弥生土器(やよいどき)の文様(もんよう)は、後期(こうき)になるとしだいにシンプルなものへと変化(へんか)し、文様(もんよう)がまったく描(えが)かれない土器(どき)も多くなります。古墳時代(こふんじだい)～平安時代(へいあんじだい)にかけてつくられた「土師器(はじき)」は、赤褐色(あかかっしょく)か黄褐色(おうかっしょく)の素焼(すやき)で、装飾的(そうしょくてき)な文様(もんよう)がほとんどつけられていないのが特徴(とくちょう)です。正解は、③土師器(はじき)です。